

学習指導要領

〔知識及び技能〕

(1) オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

(3) オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕

C 読むこと

(1) エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。

(1) カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

1. 単元名 お話し会で「心に残った場面」を交流しよう

～中心人物の気持ちの変化に気を付けて、いろいろな場面を結び付けて読もう～

教材名 「サーカスのライオン」(東京書籍 3年)

2. 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の指導事項【C読むこと(1)エ】「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。」に重点を置いて指導する。そのためには、学習指導要領における【知識及び技能(1)オ】「様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。」が必要となる。単元で取り上げる言語活動としては学習指導要領【C読むこと(2)イ】「詩や物語などを読み、内容を説明したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動」とし、単元のゴールでは、「サーカスのライオン」だけでなく、自分が選んだ本の心に残った場面について伝え合う。心に残った場面の理由については、複数の場面を結び付けて想像したことをお話し会の中で話すことができるようにしたい。そのためには、登場人物の気持ちの変化をいろいろな場面での行動や会話と結び付けて読む必要がある。中心人物の気持ちの変化や人物像を読み深めるとともに、その人物に対する自分の気持ちや感想を整理しながら学習を進めることができる。

本教材は、中心となる人物が明確であり、じんごの行動描写やじんごと男の子が交わす会話などを通して、じんごの気持ちや人物像を捉えやすい物語である。男の子に出会う前のじんご、出会った後のじんご、男の子を助けようとするときのじんごと、場面の移り変わりとともに、中心人物の気持ちも大きく変化していく。また、物語の山場で火の中に飛び込むじんごの行動や物語の終わり方については、多様な感想が生まれるだろう。中心人物に心を寄せながら読むのにふさわしい教材であるといえる。

本単元で児童は、心に残った場面について「サーカスのライオン」を学習しながら、自分が選んだ本の先行読書でも物語の中心人物の心の変化に着目し複数の場面を結び付けながら読み、その根拠や中心人物に伝えたいことも考える。単元のゴール「お話し会」ではこれまで付けてきた力を発揮し、互いの感じたことや考えたことを理解し、友だちの感じ方のよさにも気づきながら交流することができるようにしたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、2年生の時に「スーホの白い馬」で、人物の行動や会話を捉え、その理由を考えるなど、人物の様子や気持ちについて想像を広げる学習をしている。また、3年生6月の文学単元「はりねずみと金貨」は、中心人物が明確な物語であったため、はりねずみを中心に出来事をまとめることであらすじをとらえる学習をしている。この単元の学習では、児童は物語の大切な部分を見つけ、意欲的にあらすじをまとめ「あらすじカード」を作って友達と交流することができていた。

昨年度の標準学力検査の「読むこと」の得点率は63.0で、全国より1.4ポイント高い。ただし、小問分析の「心情の読み取り」「心情を表す言葉」では、正答率が半数以下となっている。このことから、登場人物を意識はしているものの、その人物に焦点を当て、変化を読み取るまでには至っていない。そこで、本単元の学習で中心人物を意識し、様子や心情を表す部分や文章に目を向けて物語を読むことで読解力を向上させたい。また、本単元の学習で読書の楽しさと共に、友達との「お話し会」の楽しさも味わわせたい。

(3) 指導観

第一次では、先行読書として、児童が好んで読み、中心人物の心の変化がわかりやすい、感動的な物語、宮西達也の「愛と涙感動のティラノサウルスシリーズ」、内田麟太郎の「ともだちシリーズ」、そして、教科書P143で紹介されている本などを教室の「読書コーナー」に置き、単元のゴールの「お話し会」で友達と交流したい本を選ぶようにする。その際、自分が選んだ本だけでなく、他の本も全て読み、付箋に感想を書かせておくことで「お話し会」の時に活用できるようにする。このように、第一次では、単元のゴールイメージをしっかりとらせ、進んで、読書活動ができるように支援する。また、「サーカスのライオン」の初発の感想を交流する際には、既習の物語に登場した人物を振り返ったり、「サーカスのライオン」の中心人物やあらすじを確認したりしてから初発の感想を交流し、そこでもった問いや感動したことが第2次へとつながっていくようにする。

第二次では、まず、心に残った場面（一番好きな場面）を出し合う。中心人物の「じんざ」の気持ちの変化を場面ごとに大まかに捉える。なぜそこが心に残ったのか理由を考える時に「じんざ」の気持ちの変化に着目して「心情曲線」で表したり、本文を一枚の紙で見ることができる「じんざブック」(全文シート)を活用したりして、自分の選んだ場面と複数の場面の結びつきを視覚で捉えやすいようにする。「サーカス小屋の中で過ごすじんざ」「夜の散歩で男の子に出会ったときのじんざ」「男の子との交流で変化していくじんざ」「男の子を火事から救ったじんざ」「じんざがいないのに行われるサーカスを見守る人々」などそれぞれの場面での特徴的な出来事の叙述に即して場面を大まかに捉えることで、中心人物の気持ちの変化や心に残った場面を自分で考えることができるようにする。児童は、文章のどこに着目したか、どのような感想と結び付けて読んだかを友達と交流することで、自分の考えに自信をもつことができるであろう。また、自分の考えたことを付箋やワ

ークシートに書き残していき、考えの過程が残るようにするとともに、付箋をもとに交流することで、自分と友達の考えを比較できるようにする。

第三次では、自分が選んだ本で「お話し会」をする。第二次までに学習してきた「サーカスのライオン」での学びを生かして、お話し会での視点を明確にし、自分が選んだ本で交流することにする。

「お話し会」では、「同じ本を選んだ人」「違う本を選んだ人」など視点の違うグループでの交流を通して、一人一人の感じ方に違いがあることに気付くとともに、お互いの感じたことを理解し、友達の感じ方の良さについても改めて気付くことができるであろう。そして、学習の最後に自分の考えの深まりや広がりなどを自覚し、達成感をもつとともにこれからの読書活動への意欲につながることを期待している。

学校図書館の活用の視点では、この学習と並行して中心人物の気持ちを考えながら読むような「読書コーナー」を設け、教科書で紹介されている書籍や他の書籍を置き、いつでも読めるようにしておく。自分が選んだ本だけでなく、他の本も読み、感想が書けるように付箋を設け、読書を奨励する。本単元の学習が終わっても、児童がおすすめの本を置けるように、引き続き「読書コーナー」を設け、学習が広がることを期待する。

本時では、児童一人一人が自分が選んだ本の「心に残った場面」「中心人物が変化したところ」などを友達と「お話し会」という形式で交流する。第二次で交流した「サーカスのライオン」での学習を生かしながら、自分が選んだ本で、付箋やワークシートなどに交流したいことをまとめておく。児童はこのまとめたことを基に「お話し会」をすることで自信をもって交流すると思う。お話し会の中では、心に残った場面とその理由について、中心人物の気持ちの変化を捉えながら説明したり伏線について話したりすることで、複数の場面を結び付けながら伝え合えるようにする。同じ本を選んでも、一人一人の考えは違うことに気付いたり、違う本を選んでいる友達の考えを聞いて、考えが広がったりすることだろう。その話合いの一つ一つが、発見となって考えが深まっていくこととなる。「グループ」での学習が中心となるが、学習の最後には「全体」で交流する時間も設定したい。「全体」で交流することで、複数の場面を結び付けて読むことの大切さと、交流の価値を確認し、学習を振り返ることができる。

UDの視点では、学習計画を提示すること、板書や振り返りなどの授業の足跡が教室の壁面に提示されていること、心情曲線の活用、付箋やワークシートを使って書き残していくことなどである。また、スムーズに話合い活動ができるように、「話合いの仕方」や「話し合う時に使う話型」などを提示することも支援としたい。

本校の研究主題は「自ら課題を見つけ、主体的・協働的に学ぼうとする児童の育成 ～話合い活動を通して～」である。学習にあたって、普段の様々な学習の場面で「話合い活動」を中心とした学習を進めてきたことで、「一人」「ペア」「全体」という学習の流れが定着してきた。1学期は自分の考えと友達の考えを比べて、同じところや違うところを伝え合うことを中心に取り組んできた。2学期からは、さらに、理由を伝え合うことや「司会者」を意識した話合い活動などに取り組んでいる。本単元の学習でさらに話合い活動が深まり、児童同士でスムーズに話合いができるような支援を行うとともに、友達と話し合うことが楽しいという学級の雰囲気作りを大切にして学習を進めていきたい。

3. 単元の目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増すことができる。 [知識及び技能] (1) オ
- 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識を得ることに役立つことに気付くことができる。 [知識及び技能] (3) オ
- ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。 [思考力、判断力、表現力] C (1) エ
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。 [思考力、判断力、表現力] C (1) カ
- 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

4. 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増している。 【(1) オ】 ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識を得ることに役立つことに気付いている。 【(3) オ】 | <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。 【C (1) エ】 ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 【C (1) カ】 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習したことや読書経験を生かして学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、進んで、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、中心人物に伝えたいことや、最も心に残った場面などを伝え合おうとしている。 |

5. 単元構想図

単元名 お話し会で「心に残った場面」を交流しよう

～中心人物の気持ちの変化に気をつけて、いろいろな場面を結び付けて読もう～

単元のゴールで期待したい子どもの姿（重点目標）

中心人物の変化に目を付けて、複数の場面を結び付けながら読み、感じたことを自分の言葉で伝え合っている。

（評価規準）【評価方法】

（付けたい力）

見方・考え方が育つ過程の児童の姿

見方・考え方を働かせるための話し合い活動の視点

他教科との関連

・道徳科
「大切なものはなんですか」
「ともだちや」

UDの視点

・学習計画の提示
・毎時間の振り返りの提示
・心情曲線の活用と提示
・付箋の活用
・ワークシートの活用
・話し合いの型

前学年・単元との関連

2年生
「スーホの白い馬」
人物の気持ちや様子について想像する。

本単元

11月単元
「モチモチの木」
人物の性格を想像する。

お話し会で交流しよう
いろいろな場面を結び付けて中心人物の変化を読もう

第9時 (主)【発言・ワークシート・ノート】
「お話し会」を振り返り、全体で単元の学習のまとめをしている。

第8時 **本時**
(主) (読)【発言・ワークシート・ノート】
自分が選んだ本の、心に残った場面や中心人物の変化などを伝え合っている。

第3次 第7時 (主)【ノート、ワークシート】
自分が選んだ本の心に残った場面や中心人物に伝えたいことなどをまとめ、次時のお話し会の準備をしている。

第6時 (読)【発言・ノート・ワークシート】
「サーカスのライオン」において、想像したことや理解したことなどから中心人物に伝えたいことを考えて、伝え合っている。

第5時 (読)【発言・ノート・ワークシート】
「サーカスのライオン」や自分の選んだ本の中心人物の気持ちが大きく変わったところについて考えている。

第4時 (読)【発言・ノート・ワークシート】
「じんざ」の気持ちの変化のわけについて、複数の場面の叙述を結び付けながら考えている。

第二次 第3時 (読)【発言・ノート・ワークシート】
「サーカスのライオン」や自分が選んだ本の心に残った場面について考えて、伝え合っている。

第2時 (知)【発言・ノート】
「サーカスのライオン」や自分が選んだ本を読み、内容の大体を捉えている。

第一次 第1時 (主)【発言・ノート】
学習のねらいや進め方を捉え、初発の感想を書いて学習の見通しをもっている。

中心人物の気持ちの変化が分かりやすい感動的な物語等の関連図書の先行読書をし、自分の本を選ぶ。

（共有）

・友達とお話し会をして、感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。

（知識・技能）

・幅広く読書に親しみ、必要な知識を得ることに役立つことに気付くこと。

（精査・解釈）

・中心人物の気持ちの変化について、複数の場面と結び付けながら具体的に想像すること。

（知識・技能）

・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増すこと。

「お話し会」で友達と考えを交流して、自分とは違う中心人物についての考え方が広がったよ。これから、読書をするときに中心人物を意識して読み読書を楽しみたい。
・「お話し会」で交流できるように、自分が選んだ本の心に残った場面について中心人物の気持ちの変化に気をつけて中心人物に伝えたいことや自分の感じたことを、付箋やワークシートに書き残し準備しよう。
・じんざの気持ちは、どうしてこんなに変わったのかなあ。前の場面に書かれていたことと結び付けて考えてみよう。
・～さんの選んだ「じんざの気持ちが大きく変わったところ」は、わたしと違うところだね。
・同じところを選んで理由が違うね。
・じんざは、始めはやる気がなかったけど、最後は勇敢なじんざになったよね。
・全文シートで見ると中心人物の気持ちの変化する前にきっかけがあることが分かったよ。
・心に残った場面は、最後の場面だよ。でもどうしてここが心に残ったんだろう。中心人物の気持ちがここで大きく変わるからだね。自分が選んだ本でも中心人物の気持ちは大きく変化していたなあ。「お話し会」で交流するのが楽しみだな。
・「サーカスのライオン」や自分が選んだ本のあらすじや中心人物について分かったよ。
・「サーカスのライオン」を読んで、心に残った場面の中心人物に伝えたいことを考えながら学習し、自分が選んだ本で「お話し会」をするんだね。
・この物語、心に強く残った場面があったなあ。～さんも読んでと言っていたけど、どう思ったんだろう。

第8時
・自分が選んだ本の中心人物に伝えたいことについて、根拠をもって自分の言葉で伝え合っているか。

第6時
・「サーカスのライオン」の中心人物に伝えたいことについて、根拠をもって自分の言葉で伝え合っているか。

第5時
・「サーカスのライオン」の中心人物の気持ちが大きく変わったところについて、根拠をもって自分の言葉で伝え合っているか。

第4時
・「じんざ」の気持ちの変化を場面を捉えながら、根拠をもって自分の言葉で伝え合っているか。

第3時
・「サーカスのライオン」や自分が選んだ本の心に残っている場面について、根拠をもって自分の言葉で伝え合っているか。

第1時
・「サーカスのライオン」の初発の感想を、自分の言葉で伝え合っているか。

学校図書館活動の視点

・中心人物の気持ちを考えながら読むような読書コーナーを設け、先行読書をさせる。

6. 本時の指導 (8/9)

(1) 本時の目標

○今まで読んできたことを生かし、自分が選んだ本の心に残っている場面について複数の場면을結び付けて自分の言葉で伝え、一人一人の感じ方のよさに気付くことができる。

(2) 準備物 付箋、自分が選んだ本など

(3) 展開

| 学習活動、児童の思考の流れ(・) | 指導上の留意点(・)、UDの視点(◎)、支援(○) | 評価規準【方法】 |
|---|---|--|
| <p>1. 前時までの学習を振り返る。</p> <p>2. 課題の確認をする。</p> | <p>・「サーカスのライオン」の学習を想起する。</p> <p>◎今日の流れを確認する。</p> | |
| <p>お話を開こう。心に残った場面をどうやって友だちに伝えたらいいだろう。</p> | | |
| <p>・友達はどうな考え方をもっているかな、今日の学習が楽しみな。</p> <p>4. 「お話し会」をする。</p> <p>①「同じ本」で交流する。</p> <p>・同じ本を選んでいるけど、中心人物の心が変化したところは、私と違うな。</p> <p>・私はそんなことを考えてなかったけど、～さんは考えていたから考えが深まったよ。</p> <p>②違う本のグループで交流する。</p> <p>・～さんは、この物語の～の場面の～部分が心に残ってるんだな。</p> <p>・私もその本を読んだけど、違う感想をもったよ。考えが広がったな。</p> <p>5. 「お話し会」のまとめをする。</p> <p>・いろいろな場面を比べて心の変化を考えることが大切なんだね。</p> <p>・友達の～な考えを知って、自分と違うところを知ることができたよ。</p> <p>・自分が心に残った場面と、中心人物が変化したところが一緒だったよ。</p> <p>・「サーカスのライオン」のお話と同じところもあるね。</p> <p>6. 今日の自分の頑張りを評価する。</p> <p>振り返りをする。</p> <p>7. 次時の予告をする。</p> | <p>◎今日の評価を確認する。</p> <p>・「お話し会」の内容(心に残った場面・理由・中心人物が変化したところ・場面を結び付けて等)について確認する。</p> <p>・同じ本を選んでいる友達がいない児童については、その児童同士で交流することを声掛ける。</p> <p>○友達の選んだ本に感想が伝えにくい児童については、並行読書で読んだ時の一言感想を見ながら、自分の感想を伝えるように支援する。</p> <p>・複数の場面を比べて中心人物の変化を捉えている児童を例に挙げて、単元の目標に迫るようにする。</p> <p>・グループで話し合ったことをもとに、全体でまとめをすることで、自分の考えが、深まったり広がったりしたことを意識させ、「振り返り」につなげる。</p> <p>◎「振り返り」のポイントを視覚で分かるようにしておく。</p> | <p>(主)自分が選んだ本の中心人物の変化や心に残った場面について友達と交流し、自分の考えを深めたり広げたりしている。</p> <p>【発言・付箋・ノート】</p> <p>(読)文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。(C(1)カ)</p> <p>【発言・ノート】</p> |

7. 評価規準

B 概ね満足できる状況

◆心に残った場面やその理由を伝えるときに、中心人物の気持ちの変化を複数の場面と結び付けながら、具体的に想像し、理由を明確にしながら、自分の言葉で伝えることができる。具体的には、「お話し会」のときに、「わたしが選んだ本の中心人物は、～場面に書いているように、はじめは～だったけど、～の場面で～な気持ちに変わったと思います。」

というように、場面を比べて自分の考えを伝えることができることを想定している。場面を比べて考えるのが難しい児童には、事前に並行読書をする際に、場面を比べて読むように促し、付箋に書く際に話型を示し、考えがスムーズに進むように支援する。

8. 板書計画

